

まるの会 DX への取り組み

代表メッセージ

まるの会は 2006 年の創業以来、一貫して中小企業の経営者や士業の方、医師の方々などへ、経済面だけでなく、家庭面、精神面、社会面、健康面、教養面の「人生の 6 分野」において、その総合的な豊かさが人生の豊かさと定義しサポートをしてまいりました。

創業後を振り返ると、リーマンショックによる世界的経済不安や、直近ではコロナ禍による生活の急激な変化など、世界を取り巻く環境は常に変化をしています。特にコロナ禍においては、求められる DX 化のスピードは非常に早く、少子高齢化、人口減少の進む日本社会では、いかに DX を推進するかが企業の生存戦略に大きな意味がある一方で、DX 化の敷居は高くなっているように感じられます。

まるの会が「中小企業の応援団」として、今後も会員様のサポートをしていくうえで、DX 化の推進やそれに関する制度の知識等を習得することは社会的意義も大きく、そのためにまずは当社自体が社内 DX を推進し、業務、人員の体制を整えることが重要であると考えます。

当社はこれまでたくさんのお客様とのご縁や支えのなかでここまで成長させていただくことができましたが、その過程で多くのお客様、そしてお客様の人生に触れてまいりました。

そういったお客様とのご縁をより一層お客様のために活用できる社内環境を整備し、環境活用のできる人材を育成することで、経済産業省の唱える「2025 年の崖」をお客様と共に乗り越え、お客様に更に寄り添ったサポート体制の構築、即ちまるの会の新たな価値創出ができると考えます。

人生 100 年時代をお客様と一生涯共に歩むことができるよう、システム整備と人材の育成をまるの会では迅速に進めます。

2022 年 6 月 30 日

株式会社 まるの会

代表取締役 一條 好男

まるの会における DX への具体的な取り組みについて

1 会社の方向性とビジネスモデルについて

2019 年から世界で蔓延したコロナウィルス。アメリカやヨーロッパではすぐさまリモートワークが主流となり、様々なサービスやシステムが生まれました。

日本でも同様にテレワークを導入する企業が増え、リモートでの会議が非常に活発化した実感はあります。しかし経済産業省は「2025 年の崖」と称し、日本の既存 IT システムが 2025 年には時代のビジネスモデルに適合せず、企業の競争力の低下や経済損失を招くと警鐘を鳴らしています。

当社は従来から日本全国の経営者や医師、士業の方々に、物心共に豊かな人生を歩んでいただくためサポートを続けてきました。これからはお客様との接点を今まで以上に増やし、お客様に寄り添ったサポートいたします。さらにこれまで通りの取組みだけではなく、蓄積したお客様のデータの整理、活用、今後のデータ収集の方法を改めて見直し、社内ルール化することで、データを活用したお客様への提案、ビジネスマッチングや課題発見、解決など従来にはなかった切り口からもサポートすることで、新たな社会的付加価値を創出し、競争力を高めていくことが重要と考えています。

2 DX 戦略について

当社は、従来の営業モデルに加え、これまで蓄積したデータを活用したより付加価値の高いご提案を行い、新しいまるの会の魅力・価値を創出し、全国の経営者様をはじめとする会員様と物心共に豊かな人生を歩んで参ります。

- ① 社員への「IT パスポート」など資格取得を促し、IT リテラシーの向上を図る。
- ② 社内データの分析・活用を進め、新たなお客様の創出、新たな価値の創出を行う

2-1 DX 戦略について（社内体制）

当社では、「まるの会 DX 推進プロジェクト」を立ち上げ、当社社員である橋本健斗と久松弘季を責任者とし、社内の DX 化を推進していきます。具体的には社内のお客様情報の保守管理やデータ活用、また社員の IT リテラシーの向上を図ります。そのために必要な資格取得のアナウンス等リーダーシップを発揮します。

2-2 DX 戦略について（システム等の環境整備）

当社グループ会社である「TESNOLOGY コンサルティング株式会社」の開発する「シナプスシステム」を導入します。社内のデータの収集・整理・統合をまず実施、その後社員全員が活用し、お客様サポートに活かせるよう仕組みづくりを行います。

3 DX 戦略を図る数値目標について

当社では社員の IT リテラシー向上を図るため、資格取得を促します。「IT パスポート試験」や「情報セキュリティマネジメント試験」の受験を推奨します。

数値目標： IT パスポート試験 取得者 2 名